

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	24	学校名	静岡県立伊豆の国特別支援学校	校長名	早田公子
------	----	-----	----------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全・安心①	児童生徒が安全に安心して生活できる学習環境の整備や危機管理体制を構築する。	緊急時や災害時の職員の役割や動きを理解し、適切に対応できた。	訓練やマニュアルの改訂等を行った。緊急時や災害時の職員の役割や動きを理解し、適切に対応できた。実施できた教員 100%	A	基本的な体制とマニュアルを踏まえ、訓練を実施できた。今後も様々な場面に対応できるように、訓練を重ねていく。防災では、コロナ禍でまだ実施できていない所在地域や居住地域との連携を構築していく予定。
		児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施した。	訓練や防災教育等で、児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施した。実施できた教員 98%	A	児童生徒が落ち着いて訓練に取り組み、意欲的に防災教育に取り組んでいる。安全教育により自分で身を守る力が身についている。引き続き、大学や危機管理局とも協力し、防災学習の内容や教材を充実させていく。
		校舎内や地域の危険場所の確認や改善を行うKY（危険予知）ミーティングを、各学期初めに全職員縦割りで年3回実施した。	KYミーティングを年3回実施し、危険箇所や情報を共有した。実施できた教員 98%	A	KYミーティングを通して、危険予知と回避に向けた意識作りができた。引き続き、児童生徒の実態や時期により起こる危険の違いなどにも視点を置いて、危険予知情報の共有を実施していく。
		安全点検を実施後の対応を100%実施した。	毎月の安全点検を実施。可能な範囲で、対応や改善をし、情報共有した。実施できた教員 100%	A	点検後は事務と連携して改善。事故防止や安全意識を持つことができた。大きな事故はなかった。今後は、より確かな点検に向けて、点検項目の見直しを検討する。
安全・安心②	児童生徒一人一人の人権が尊重され、いきいきと活躍できる教育活動を実施する。	学部会でミニ人権講座を実施した。	定期的に、全体や学部で人権研修やミニ講座を実施した。実施できた教員 98%	A	自己チェックや研修、人権だよりや人権川柳、掲示物での啓発を繰り返すことにより、人権を大切に指導することができた。自己チェック結果の集計を分析をして掲示板で情報共有したり、話し合い形式の研修を持ったりしたことは、人権意識の維持や向上の実感につながった。チェックを入力式とし、業務改善もできた。今後も継続的に取り組みを続けていく。
		3分間セルフチェックで毎月、人権感覚チェックを実施した。	毎月、人権自己チェックを実施。分析を掲示板で公表し共有した。実施できた教員 96%	A	
		児童生徒一人一人に合ったコミュニケーション	学年や学部で、一人一人にあったコミュニ	A	

様式第3号

		方法を学年や学部で共有した。専門家による指導助言を年3回、当事者の講演会を年1回、実施した。	ケースン方法の検討や共有を行った。大学教授による指導助言を年3回、東田直樹氏の講演会を年1回、実施した。実施できた教員95%		ケースン方法等の検討や共有を行うことができた。大学教授による指導助言は、専門的な視点が得られ有効だった。東田直樹氏の講演会は、当事者の思いを知る機会となり、児童生徒理解を深める内容だった。
専門性①	新学習指導要領に沿った12年間のつながりのある教育課程を実施する。	実践の成果を共有し、次年度に向けてカリキュラム・マネジメントシートとシラバスの見直し改善を12年間のつながりの視点で行い、教員間で共通理解をした。	12～2月に、次年度に向けてカリキュラム・マネジメントシートとシラバスの見直し改善を実施中。12月にカリマネの意義や進めたかを教員間で共通理解した。実施できた教員90%（12月末時点）	A	現在、学部や分掌にて実施中。昨年度の反省を受けて、R4年度は「学部内のカリマネ」など、見直しのポイントを絞った。12年間の系統性をおさえることや、全教員が意図して参加する必要性など、カリマネについて理解を深める研修を実施してきたので、カリキュラム・マネジメントへの教職員の意識が向上している。
		シラバスの達成に必要な教材教具を整えた。	1年目にそろわなかった教材教具を順次整えた。実施できた教員89%	B	まだ音楽の教材教具で必要なものがある。今年度は来年度に向けた予算ヒヤリングを実施し、予算執行の中で、必要な教材教具を全校の視野や優先順位を踏まえて整えていく。
専門性②	児童生徒の適切な実態把握と課題設定により、確かな学びを積み上げる国語・算数（数学）の授業実践力の向上を図る。	ラーニングマップによる児童生徒の学習状況の評価を年間3回行い、国語・算数・数学の授業で、児童生徒が何を学んだのかを明らかにした。	ラーニングマップを活用して、個々の学習状況を把握し、適切な指導目標と指導内容を設定した授業実践を積み重ねた。児童生徒の学習状況の評価を年間3回行い、国語・算数・数学の授業で、児童生徒が何を学んだのかを明らかにした。実施できた教員98%	A	2年目も引き続きラーニングマップを全校統一の実態把握の指標として活用したことは、専門性向上に有効だった。 1年目に課題としてあがったラーニングマップの理解、障害が重い児童生徒への活用等、授業デザインシートの活用や授業実践についても、研修の内容や方法を改善して実施することができた。学習評価に基づく授業改善の充実に向けた研修を行った。1月の公開授業研究会では、全員が国語・算数（数学）の授業公開を行った。
専門性③	将来の生活を豊かにするためのキャリア教育のあり方を考える。	全職員が、なごのはプランをキャリアの視点で見直す事ができた。教職員向け進路研修や高等部見学を実施した。	進路研修や施設見学、高等部見学を通して、将来やキャリア教育についての意識が高まった。実施できた教員97%	A	進路研修や施設見学、高等部見学は、将来の豊かな生活を見据えたキャリアの視点を持つことに有効だった。引き続き、キャリア教育の視点で小学部・中学部・高等部段階で大切にすることを、なごのはプランを基に考えていく機会をもっていくようにする。
連携	児童生徒の良さと本人・保	児童生徒の良さを学校と保護者	1年目の伊豆の国書式個別活用の課題を	A	1年目に新書式を活用して出た課題等を取り上げ、昨年度後期から、

様式第3号

①	<p>護者の将来の願う姿を共有する個別の教育支援計画、個別の指導計画（以下、伊豆の国書式個別）に基づき、保護者関係機関との連携を図る。</p>	<p>で共有し、伸ばすことができた。伊豆の国書式個別を保護者や関係機関との連携に活用した。</p>	<p>整理した。内容等をよさや長所の共有を意識した目標設定や面談を実施した。保護者や関係機関との情報共有と連携に活用した。実施できた教員 97%</p>	<p>検討改善や共通理解のための研修を実施した。引き続き、保護者や関係機関（放デイ・病院等）からの意見を参考にし、面談方法や活用方法等、保護者や関係機関との効果的な情報共有の方法も探っていく。</p>
連携 ②	<p>積極的に地域と関わり、学校や児童生徒について、地域への理解啓発を図る。</p>	<p>地域資源を活用した学習を実施した。</p>	<p>コロナ禍を踏まえつつ、地域での学習の場を広げ、児童生徒の地域での学習の機会や活躍場面を増やすことができた。実施できた教員 94%</p>	<p>A コロナ禍の中でも、地域資源を活用した学習の場や交流の相手を増やすことができ、地域の理解の広がりも実感できた。1・2年目は、まず実施してみることから始めた。今後は、児童生徒にとって、地域で学習する目的を明確にし、活動内容を整理していきたい。</p>
		<p>ホームページ（二週間に1回更新）、学校だより、児童生徒の作品等で、情報発信をした。</p>	<p>二週間に1回更新以上のペースでホームページを更新した。（1月末現在:110回更新）図工美術作品を掲示するギャラリーコーナーを新設した。実施できた教員 97%</p>	<p>A ホームページ・たより配布・新聞掲載等、児童生徒の日頃の学習活動や作品、地域学習の様子を積極的にタイムリーに地域に情報発信し、一年目より地域への認知度を向上することができた。視聴者が増えるように、ホームページ・たよりにQRコードを掲載した。</p>
連携 ③	<p>外部機関や有識者と連携し、社会の変化に合わせた学校の担う役割について考える。</p>	<p>コミュニティスクール、就業促進協議会等を開催し、得られた助言や情報を共有した。</p>	<p>コミュニティスクール、就業促進協議会等を開催し、情報を共有した。学校の役割について話題にした。実施できた教員 96%</p>	<p>A 社会の変化に応じた学校の役割やキャリア教育のあり方について、関心を持つことはできた。来年度は、外部からの情報の共有の仕方を工夫し、話題にすることから、考えたり話し合ったりするところまで意識を上げたい。</p>
チ ー ム 学 校 ①	<p>教職員一人一人がやりがいをもち新しい学校づくりへ参画する。</p>	<p>提案について、学部会・分掌部会・主任会等で話し合うことができた。</p>	<p>学校評価や面談、会議等が出た、個々の発見や提案を吸い上げ、話し合うことができた。実施できた教員 97%</p>	<p>A 学校運営に対して、意見を言ったり、提案をしたりしやすい環境はある。よりよい学校づくりに向けて、一人一人が参画意識がもてるような、意見の吸い上げや会議の方法を工夫したい。</p>
		<p>管理職との面談等で、自身が学校づくりで力を発揮したいことや、自分の得意分野を伝えることができた。</p>	<p>面談等で、個々によさや強み、学校運営への抱負、自分の役割等を伝えることができた。実施できた教員 96%</p>	<p>A 教員一人一人が、自分のよさや強みを自覚し、学校運営に活かしたいという気持ちを持つことができた。今後その思いが効果的に発揮できる、人事や役割分担をしていく。</p>